

上下水道事業経営評価制度等に関する意見

－平成22年度経営評価(平成21年度事業)等について－

京都市上下水道事業経営評価審議委員会

平成23年1月

京都市上下水道事業経営評価審議委員会は、平成２２年度に実施された上下水道事業経営評価等について、将来にわたる改善も含めた制度の充実等に向けた検討を行った。

指摘した事項については、可能な限り早急に改善を図るとともに、提案の趣旨を尊重し、経営評価制度の一層の充実等に向けて努力されたい。

1 上下水道事業経営評価全般について

平成２２年度の経営評価は、昨年度、当委員会が取りまとめた「上下水道事業経営評価制度等に関する意見」を踏まえ、詳細で精緻な分析を踏まえた評価を行いつつ、市民向けに簡潔に取りまとめた概要版を作成するとともに、現在の進捗よく度、経年の動向を容易に把握できるよう記載を改善するなど、市民に対し、より分かりやすく、的確に経営状況を伝える工夫がなされた。また、平成２２年度の委員会を早期に開催し、運営を行うことにより、予算編成等への一層確実な反映に向け、経営評価の効果的な活用が図られたものと判断される。

特に、本年度、新たに作成した概要版については、市民の関心を引くように表紙を工夫するとともに、写真や図表等を用いて、評価結果をより分かりやすく効果的に説明しているものと評価できる。

今後は、この概要版について、より広く市民に周知を図るよう、より効果的な情報発信方法を検討されたい。また、引き続き、本冊と併せ、市民への説明という面から、料金の使い道や経費の内訳、環境に関する取組など市民生活に関わりが深く関心の高い事項はもちろんのこと、上下水道局の経営状況や事業推進上の課題など、市民によく知ってもらいたい事項を伝えていくよう努められたい。さらには、経営指標評価、取組項目評価共に、前年度から評価結果が悪化したものについては、その原因、課題をより分かりやすく説明するよう努められたい。

2 経営指標評価について

経営指標評価は、本冊子において、指標ごとに３箇年の実績を掲載することで、経年の動向を把握しやすいよう改善が図られている。

経営指標評価の特徴として、指標値の前年度比較と偏差値による大都市比較を行っており、事業の改善度や大都市の中での京都市の位置付けを市民に分かりやすく説明する工夫がなされている。

しかしながら、大都市比較については、「京都市の位置付けを把握することは、事業課題、今後の方向性の検討に重要である」と位置付ける一方、「都市ごとに地域特性や事業背景などの条件が異なるため、一律に都市間の経営環境を比較することは困難で、あくまで判断材料の一つである」と記述されている。

京都市は、明治時代に建設された疏水を活用し取水していること、地理的に琵琶湖・淀川水系の中流域に位置するため、水環境の保全に取り組んでいることなどの特性があり、大都市全体を同様に扱う比較だけでは、その趣旨や目的が明確には見えてこない部分がある。そのため、京都市らしさを表す特徴的な指標を中心に比較を行うことや、説明に当たり表現を工夫することにより、市民により分かりやすく伝えるよう検討されたい。

また、引き続き、経営指標評価と取組項目評価との関連性について、それらの経営評価における位置付けや、それぞれが持つ役割の明確化に向け検討を図られたい。

3 取組項目評価について

取組項目評価は、本冊子において、「中長期目標に対する進ちょく状況」を掲載することで、当該年度の進ちょく度や目標水準の妥当性等を市民が把握しやすいよう改善が図られている。

評価結果については、上下水道事業の推進に努めた結果であり、妥当なものと評価できる。しかしながら、5段階評価で「A」、「B」のみの評価となっていることについて、この経営評価の意図するところと市民がこの経営評価に期待するイメージとの間にギャップがあるのではないかと思われる。これは、取組項目評価が事業推進方針に基づく単年度の取組目標に対する達成度を評価するものであることの説明が不足していることや、上下水道局として、安全・安心で良質な水の安定供給、大雨による浸水被害の抑制、快適で衛生的な都市生活の確保、健全な水循環の構築に向け取組を進めていることについて、市民に十分な周知が図れていないことなどから、評価結果について、市民が実感しづらい状況にあると推測される。

今後は、市民への説明の面から、上下水道局の社会的使命や役割を踏まえ、事業の重要性や今後の課題等についても分かりやすい説明を加えるなど検討されたい。また、中長期的には、客観性の向上に向け、評価指標、数値等の説明の工夫や取組状況を把握しやすいような指標の活用を図ることも併せて検討されたい。

4 上下水道局企業改革プログラムについて

企業改革プログラムは、中期経営プランとの関連性を踏まえ、取組項目評価における取組の位置付けを明確にしたうえで、評価が実施されている。

企業改革プログラムの平成21年度の取組実績の報告によると、営業所等での宿日直業務の原則廃止や所属長マニフェストの策定・実践、技術継承に係る取組など、すべての取組項目に着手し、全体として順調に進ちょくが図れている。

引き続き、中期経営プランの一層の推進を図る観点からも、企業改革プログラムの目標達成に向けた取組を進められたい。

5 今後に向けて

近年、景気の低迷や、節水意識の向上、大口需要者の地下水利用への転換など、上下水道事業の運営面に関して、水需要が減少する厳しい経営環境にある。

このような中で、上下水道事業は市民生活や社会機能を支える重要なライフラインであることから、将来にわたり安定して事業を継続していく必要がある。

また、京都市は、特に琵琶湖・淀川水系の下流域での水利用に関し、下水の高度処理などにより、水環境の保全に多大な貢献をしている。

上下水道局においては、効率的な事業運営に努めるのはもちろんのこと、これらの社会的使命や役割、事業の重要性について、上下水道の利用者である市民はもとより、大口需要者である事業者に対しても、今後、より一層、分かりやすく説明し、理解を得ることが重要であると考えます。また、併せて、事業の継続に必要な技術の継承、事業を担う人材の育成を着実に行うなど、長期的な視点から企業改革に取り組まれたい。

<審議経過>

開催回	年 月 日	主 な 内 容
第1回	平成22年8月2日(月)	・上下水道事業に関する報告 ・「上下水道事業経営評価制度等に関する意見（平成21年度）」に基づく取組に関する審議
第2回	平成22年11月5日(金)	・平成22年度経営評価に関する報告 ・経営評価制度の充実に向けた審議
第3回	平成22年12月21日(火)	・経営評価制度の充実に向けた審議 ・意見の取りまとめ

<委員名簿>

(五十音順，敬称略)

氏 名	役 職 等
えちご しんや 越後 信哉	京都大学准教授（大学院工学研究科）
おそだ みほ 襲田 美穂（平成22年8月3日 退任） かみで みき 上出 樹（平成22年9月27日 就任）	上下水道サポーター ※
こばやし ゆか 小林 由香	税理士
つざき けいこ 津崎 桂子	社団法人京都私立病院協会事務局長
にしむら ふみたけ ○ 西村 文武	京都大学准教授（大学院工学研究科）
みずたに ふみとし ◎ 水谷 文俊	神戸大学教授（大学院経営学研究科）

◎：委員長，○：副委員長

※ 上下水道サポーターは，施設見学やアンケート調査等の活動を行う上下水道モニター（毎年度，市民の皆様から公募。任期は当該年度）として御活動いただいた方のうち，引き続き，上下水道事業に御協力を頂いている方です。